



第22回



まちづくり推進会議

平成31年5月1日発行

開催日 平成31年3月22日(金) 18:30~19:40 委員出席者~20人 事務局出席者~18人
開催場所 総合福祉センターうらら 多目的研修室

◆まちづくり推進会議のこれまでの取り組みについて

平成23年に設置されたまちづくり推進会議は、現体制での開催は今回で最後となりました。会議では、これまでの取り組みについてまとめた資料を提出し、各委員から意見や感想をいただきました。



○主な意見・感想等は次のとおり

- A委員：初めてこの会議に参加した時に、2040年に人口が3,100人になる(推計)と聞いてびっくりしました。3,100人の人口で、100人の職員を抱えてやっていけるのか、できないなら合併したほうがよいのではないかと、という話をしたことを覚えています。
- B委員：最初は正直なところ、まちづくりに参加することには抵抗がありましたが、会議に参加させてもらったことで、いろいろな方の考え方を聞くことができ参考になりました。また、このような会議を基にまちがつくられていくことを実感できました。
- C委員：最初に参加した時に、題材の大きさに驚きました。また、内容が膨大で、どこをどう議論していいのかかわからず、最初の1年間はかなり戸惑いました。町民参加条例の検討に入ってから、同じ題材が何度も取り上げられたので、少し話がしやすくなりましたが、もう少し具体的に意見を求めてくれたほうが意見を出しやすかったのではないかと思います。
- D委員：素朴な疑問になりますが、町には町議会議員がいるのに、町民参加条例の内容をみると同じような事をやることになるのではないかと思います。この条例が軌道に乗れば、議員の定数を減らす意向があるのかはわかりませんが、町議会議員がいるのに、私たちがここまでやる必要があるのかかわかりません。今年、町議会議員選挙があるので何人か自宅に訪ねてきましたが、町議会を見たことがありませんし、選挙以外で訪ねて来ることもしませんので、誰なのかかわかりませんでした。町議会があるのに、重複した内容を会議で話し合う必要があるのかなと感じております。
- E委員：私は第1回の会議から参加していますが、訓子府町の人口が減っている中で、町と住民が協働してまちづくりを進めていくには、こうした会議が本当に大切だと痛切に感じています。これからも町民の声を吸い上げながら進めていただきたいと思います。
- F委員：最初に感じたのは、5年後、10年後に人口が減って、老人の町になってしまうという寂しい気持ちと、若い人がいなくなるので、老人が頑張らなければいけないという気持ちです。私は町外出身ですが、訓子府町は町民が仲良く、役場に対して協力的だと感じています。例えば、保健師さんはきめ細やかな対応をしてくれていますし、住みやすい町だといつも自慢に思っています。この会議は、最初は難しかったですが、何度も参加しているうちに、みんなで町を守っていかねばならないと痛切に感じました。70歳になっても、80歳になっても、病気がなく元気な人は少しでも声を出して、参加していけば、いい町になるのではないかと感じています。

G委員：この会議には、長い間参加させていただいています。最初は話すことが難しいと感じていましたが、だんだんと会議に出席していると、自分の思っていることを発言することができるし、町民の意見が反映されている部分が結構あると感じています。人口減少下では、町民参加は重要になってくると思いますので、これからも同じような考え方で進めてもらえれば、良いまちづくりができると思います。ゆりかごから墓場までという言葉がありますが、訓子府町は当てはまる部分が結構あると思います。



H委員：4年間参加させていただきましたが、テーマが大きいので、一個人としてどこまで意見を言っているのか、戸惑う部分がありました。町民参加条例の話が主体となってからは、検討部会にも参加させていただきました。先行して条例をつくった町の実態を聞くと、絵に描いた餅のような状況もあるようなので、つくればいいものではないと感じていますが、将来的には人口が減少していき、町村合併の話もまた出てくるのかと思いますので、これからのまちづくりを町民の皆さんからいろいろとご意見をいただくためにも町民参加のこうした会議は必要だと思えます。推進会議の条例もできましたので、新しいかたちで訓子府の将来に向けた検討をしていただければと思います。

I委員：率直に難しい内容だと感じました。20代や30代の人で、今回の条例についてわかっている人は一握りもないと思いますので、広報をするときには、若い世代にもわかりやすい内容にしてほしいです。

J委員：4年前から参加していますが、当時は各町内会・実践会から代表が参加して、各地域の細かい課題について話し合っていた記憶があります。これからの推進会議の委員は各地域の代表ではなくりますが、今までのように各地域からの声も拾い上げられるようにするべきだと思います。

K委員：今までは、まちづくりについて考えたこともなかったため、意見を求められても感想ぐらいしか言えませんでした。まだ、意識が高いとは言えませんが、少し考えるようにもなったので、広報を読むことからはじめたいと思います。

L委員：私もこの会議に参加して、町の仕組みについて以前よりも興味が出て、考えるようになったこともあり、良い機会を与えてもらったと思っています。また、参加条例や推進会議条例の内容について、地域の会議などで聞かれてもうまく説明できない部分もあるので、できれば地域の担当者が来てくれる時にでも説明してくれたいと思います。

M委員：この会議に参加した当初は、内容が全然わかりませんでした。だんだん出ているうちに、何となくわかってきて、ようやく興味が出てきたところです。昔に比べて、町の人口がどんどん減っていて、町の雰囲気も変わってしまい、寂しい気持ちになっています。遠くにいる娘も帰ってくるたびに閉店する店舗が増えていることに寂しく感じているようです。これから超高齢化社会を迎えるので、まちづくりに興味を持って過ごしていきたいと思っています。また、私の任期は終わりますが、(新しいまちづくり推進会議で)もう2年やってみたくと思っています。

N委員：この会議が8年間続けてこられ、最終段階に入り、来年から正式に条例化してスタートするということで、今まで関わってこられた地域の代表の方々の苦勞や、菊池町長が町民一人一人のことを真剣に考えてきた結果だと実感し、感動しています。個人としては素晴らしい町長を称えたいと思います。これから良い町になっていくと期待していますので、いろいろな困難はあるかと思いますが、新委員とともに町をつくり上げていただきたいと思います。

O委員：難しい会議で戸惑ってしまい、なかなか意見を言えませんでした。皆さんの意見を聞くと、まちづくりにつながっていると思いますし、町の事業の参考になっていると感じています。元気な

若者がいますし、子どもも結構いるので、こうした会議で町民がまとまって、良いまちづくりにつながっていいと思います。

P委員：私は、町内会が女性の代表を出していきたいということで、この場に参加させていただいています。検討部会にも参加させてもらいましたが、意見を言えるようなことはありませんでしたけれども、各地域の方が少しずつ問題を提起して、町長や課長がそれに答えていく中で、まちづくりが行われているのだと感じました。私は、協議体の「ほとなまちをつくり隊」に参加していますが、次年度から推進会議には各地域の代表者ではなくて、各団体から参加していただくということでしたので、協議体の中から活動内容や課題を発信していきたいという話が出ていますし、委員を出せたらいいなという話も出ています。自分たちの活動がまちづくりにつながるということもわかってもらえると思いますので、検討していただきたいと思います。

新しいまちづくり推進会議では、町長は会議に出席しないということですが、町長に生の声を聞いていただく機会も必要だと思いますので、何回かに1回は町長に参加してもらいたいです。何年もかけて、再出発する推進会議ですから、絵に描いた餅にならないように進めていただけたらと思います。

Q委員：この会議に参加するまでは、役場に来ることもあまりなく、まちづくりなんて考えたこともありませんでしたが、参加して重要なことを考えるきっかけとなりました。他の地域からうらやましがられる、わくわく園やスポーツセンターがオープンして、訓子府にいろいろな人が来るようになるチャンスだと思いますので、素通りされず定住してもらえるよう、空き家対策をはじめとした未来への施策が、まだまだ必要だと思います。



町長：最初のうちはよくわからなかったけど、参加しているうちにまちづくりに興味を持った、新しい体制になった時には生の声を聞いてもらえる仕組みを大事にしてほしいといった意見をいただきました。また、会議には私も出たほうがいいという意見もありました。当初、私はこの会議に出ていませんでしたが、町長が進行をするべきだという意見があって現在の体制になりました。しかし、私が進行をすることで、皆さんが意見を出しづらい状況をつくっているのではないかという心配もありました。住民が、住民による、住民のための推進会議、民主主義の基本に立ち返るべきだと考えていますので、これからは委員の代表の方に進行をしていただこうと考えています。私自身は呼ばれればどこでも出ていきますので、そのことについては事務局の企画財政課長と検討していきたいと思います。

※まちづくり推進会議の議案は、訓子府町図書館内「訓子府町まちづくり情報コーナー」で閲覧ができます。

裏表紙に「まちづくり推進会議の委員募集」についてのお知らせがありますので、ご覧ください。

◀ 新しいまちづくり推進会議がスタートします ▶

町では訓子府町まちづくり町民参加条例の制定に併せて、「訓子府町まちづくり推進会議条例」を制定し、新しいかたちでまちづくり推進会議をスタートしますが、その概要をお知らせします。

設置目的	○町民が主体的にまちづくりに参加できるよう、町民の意見をまちづくりに反映させることを目的とします。
組 織	○委員数24名以内 ○公共的団体に所属する方、有識者、公募による方から選出 ※任期は2年、年齢や性別等に偏りがないよう配慮 ○委員の互選により会長及び副会長を選出 ○全体での協議のほか、必要な場合は専門部会（3部会を想定）を設置して協議することができます。
開催方法	○原則年3回開催するほか、随時開催することができます。 ○会長が議長を担当します。 ○企画財政課が事務局を担当します。 ○会議は原則公開とします。
協議事項	1. 会議は、町長の求めに応じ、次の事項について協議し、その結果について町長に意見を述べるすることができます。 (1) 町民参加手続を行う町の仕事（①計画の策定など、②条例の制定など、③公共施設の設置など、④その他町民の関心が高いことなど）のうち、町長が特に協議が必要と判断するもの ※想定される町の仕事の例～総合計画の策定、自治基本条例の制定、広く一般町民が使用する会館の建設など (2) 町民参加手続を経ない町民からの提案、要望等のうち、町長が特に協議が必要と判断するもの ※担当部署で対応が可能なものなどは除外 (3) その他町長が特に協議が必要と判断するもの 2. 会議は、上記1の事項のほか、自らが協議が必要と判断する事項について協議し、その結果について町長に意見を述べるすることができます。



◀ 「まちづくり推進会議」の委員を募集します ▶

今月号広報記事でも概要をお知らせしていますが、7月に設置を予定している新しいまちづくり推進会議の委員を募集します。まちづくりに関心のある方は、ぜひご応募ください。

募集人数	2名
応募条件	町内に住所を有する満18歳以上の方（5月1日現在）
任 期	2年
報 酬	規定により報酬を支給 ※会議の時間が2時間以内の場合は2,000円とし、2時間を超える場合は1時間増すごとに1,000円を加算
応募方法	応募用紙に必要事項を記入し、郵送、メール、FAXまたは持参により提出してください。なお、応募用紙は、町のホームページよりダウンロードをしていただくか、企画財政課に備え付けのものをご使用ください。
選考方法	応募多数の場合は、抽選により決定します
募集期間	5月1日から5月31日まで（当日必着） ※持参の場合は、土日・祝日を除く、開庁時間（8：45～17：30）とします。
応募・ 問合せ先	〒099-1498 常呂郡訓子府町東町398番地 訓子府町役場企画財政課 ☎: 47-2115 FAX: 47-2600 Eメール: kikaku@town.kunneppu.hokkaido.jp

